

THE LAMARCA
SCHOOL OF
SPORTS AND
RECREATION



球技大会

2006.5.25



1st 2-E
2nd 3-C
3rd 3-G 1-C



1st 3-F
2nd 3-D
3rd 2-C 1-A



1st 2-D
2nd 3-B
3rd 3-A 1-A



1st 3-G
2nd 3-C
3rd 2-A 1-C



1st 3-D
2nd 3-E
3rd 3-F 3-A



1st 2-F
2nd 3-B
3rd 3-B 2-C





今年度会長に推挙されました安達です。経験も浅く、非力の身で皆様の満足のおゆくような成果があげられるかどうか、其れだ心もなない気持ちで一杯ですが、皆様ののご指導を仰ぎながら、一杯一杯がんばります。さて、この柏陵高校では、生徒だけでなく、すべての保護者の方にも、柏陵ファミリー意識を強く持つて頂きたいと思っております。そして、子育ての悩みや、様々な事柄を何でも話し合える場所、親も勉強したり、楽しんでいたりできる場所として気軽に考えて頂き、参加して頂けるように、ご自分でも様々な希望、要望が出てくると思っています。そんな声を保護者会活動に反映させていければと考えております。なにはともあれ、この貴重な機会を大切に、明るく楽しく交流を深めながら、学校運営に協力していきなさいと思っておりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願ひ致します。



保護者会会長 安達 康

素敵な出会い



柏陵高校に着任して一学期

校長 今野 隆雄

校庭の大きな、まばゆいばかりの新緑を見た。石畳の林はますます色濃くなつてまいりました。さぞかし生徒たちも、窓の外に目を向けたとき、目の奥が癒されるのを感ずけることと思つた。この原稿の執筆がありまして、保護者会の方事委員会の皆様には、すばらしい広報紙を発行していただきまして、感謝の意を述べさせていただきます。私は、これまで津市、市川、船橋、柏地区の学校に勤務してきました。柏陵高校の校庭を流していきたくは思いません。もうすぐ夏休みです。新年度は、おなじみ、近隣の方から本校は「柏陵」に建つて一とひとりで、命を懸けてたどつて来た。職員玄関を入つた正面のガラスケースに、描れんばかりに収められていた数々の賞状・トロフィーを見れば、柏陵高校は部活動が盛んで、その実績もすばらしいということが、目撃感です。全国に誇れる、立派な伝統ある高校に着任することができたことを喜んでおられます。

現在までの部活動の大会成績は、女子ソフトボール部は県大会一位、フェンシング部男子団体・個人と新体操女子個人が関東大会に出場することに成りました。生徒たちは、毎日、生徒朝礼に出向いております。今後とも、ご支援をお願いいたします。七月に卒業した生徒たちの進路の結果は、大学八十六人、短大十六人、専門学校七人、就職、十八人となっております。今年も進路、進路指導部を中心に計画に基づいて指導を進めているところで、ご家庭でも機会を捉えて、将来のことについて話し合ひをしていただきまして、お力をお貸し下さい。柏陵高校の進路は、文芸・理系の教育を推進し、(一)本校の樹立、(二)学力の向上、(三)健康・体力の増進を掲げております。現在の学校教育は、学校と家庭の連携が不可欠であると考えております。今後とも、保護者の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

5月27日、保護者会総会が開催されました。当日は、朝から冷たい雨降るあいにくの天気でしたが、御参加いただいた皆様には朝礼申し上げます。少子化の為、本校においても昨年度に引き続き一クラス減少し、更なる予算の見直し・対応策が必要となります。今野校長先生、安達会長を中心に安全対策や地域交流など、様々な事業を執り行つていきます。御協力を願ひします。確かに高校生ともなると勝手に育つてくれるようです。親が学校に顔を出すことを子供は嫌ひ、そして我が子の姿を見つけた時は、何故か身を隠したくなります。しかし、先生方、職員の方、保護者など多くの人達から影響を受けて親も子も成長していくのだと、改めて感じることもできた、日でした。

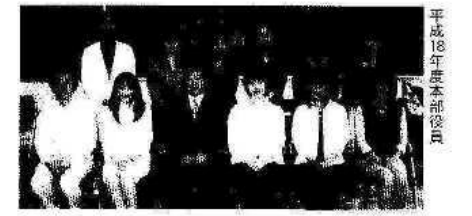


副会長 池島 公子

総会報告

平成18年度 役員及び保護者会学級理事

- 本部役員
- 1学年理事
- 2学年理事
- 3学年理事



平成18年度本部役員

一学年主任 鈴木 俊世先生
街歩きが好きで、先日東京の日里園遊を散策しました。そこで江戸時代に其位の人のお坊さんの話に出会いました。
一人は羽根和向。有名な八百屋お七の恋人だった彼は、お七が放火の罪で火刑に処された後、その菩提を弔うため、狂坂下町の辺りがある浅草寺まで日参し、刀を光輝し、二十七年五月を掛けて成就しました。
もう一人は松葉祥庵。彼は花替して得た洋財を元金、等身大の木造羅漢像五百二十六体(五百羅漢寺)に三百五体が現存。匠業を十数年の年月をかけて彫り上げました。この二人は宗教的情熱があつたといはれ、さうゆつ一つのことを長い時間かけて成し遂げたこと、私たちが苦手をすまね、世の中のスピードに行わせて、すぐに結果を出したがりです。教育もさう。生徒諸君のことをもう少し懇話強く、長い目で見ないと、なま、と思ひました。

二学年主任 根本 利一先生
第28期生も二年生となり、また新たなスタートを切りました。昨年度は、高校に入学生、生活環境の大きな変化の中、様々な事を頑張って取り組み、あつたという間の一年間は、なかなかではないでしょうか。一年生でも同じ様に、何事にも前向きに取組んで欲しいと思ひます。将来の目標や夢を、そのための準備をする大切な時期です。ただ、先の事を考える憂うつになり、目の前の誘惑に負けてしまつてしまつてしまつても構いません。後悔させないために、様々なアプローチとフォローをしていきたいと思います。高校生になり時間もとても大切でありながら、一番平凡になりながらも、生徒と接して欲しいと思います。

三学年主任 坪崎 博幸先生
二年生の唯一、最大の課題は、進路です。高校生活二年間で感じたり考えた自分の将来像や生き方を、この一年で方向性あるものとして実現することが迫られています。そして、時間は限られています。
社会やその仕組みは常に変化し、その中で自分だけの様な職業や生き方で関わっていくのか?という答えを求められているのですから、進路決定というのは、大変な作業だと思ひます。だから、個々もはきかないので、どうかと想像しています。
今まで、一週日の時間に進路について考える時間を設けてきました。社会人や卒業生の話を聞いたり、働く現状について説明したり、実際に上級学校を見学してきました。生徒が、自分なりに進路について考える時間と場を提供しました。
いよいよ、夢を叶えたり目標に達するための第一歩を踏み出す時が到来したのです。状況を把握し、正しい情報を整理し、時には自分の主張を通し、時には妥協することも必要になると思ひます。ぜひとも保護者の方には引き続き相談相手として、また頼れる激励相手として、生徒とおつきあひをお願いいたします。
この夏休みが、人生の大きな一里塚となることを願っています。

